

29年度指導方法の課題分析と具体的な改善策及び補充指導などの計画 教科 美術

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に作業する生徒が多いが、完成度を高める前に完成とみなし、提出してしまう生徒がいる。 進んでいる生徒と遅れている生徒の差が開いている 	<ul style="list-style-type: none"> どのように手を加えれば完成度が上がるかということアドバイスを。 生徒一人一人が作業手順を理解し、その制作過程に応じた作業がスムーズにできるよう、机間巡視でアドバイスする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲を促す必要のある生徒、新たな課題意識を引き出す必要のある生徒など、個々の生徒の状況や目標に合わせたアドバイスを。 放課後や昼休み、長期休暇に補習を行い、遅れている生徒のフォローをする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 課題を意識し、創意工夫して作業する生徒も多いが、気分に流されやすく粘り強く取り組めない生徒もいる。 制作の要点を理解している生徒とそうでない生徒の差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作過程で次にすべきことを明確にして、机間巡視で具体的なアドバイスを個別に行う。 作品制作を実演して見せ、どこが要点なのかを分かりやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の補習教室などで個別指導を行う。また、個々の生徒の優れた点や、努力が必要な点など把握し、評価が次の指導に生かせるようにする。 制作手順のプリントや黒板での説明でも、絵や図、写真など用いて分かりやすくアドバイスする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 集中して丁寧に作業する生徒が多いが、自ら工夫して独創的な発想をする力にやや欠ける。 制作は丁寧であるが、失敗を恐れて小さい表現になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発想には正解や不正解というものがないことを伝え、安心して自由に発想させる。浮かんできたアイデアを聞き、具体的なアドバイスを。 制作前、制作中に随時、技術面のアドバイスを。また、失敗したときの対処法も教える。 	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品や資料などを使用し、具体例を見せることで発想の幅を広げる。 失敗したが発想を変えてうまく回避し、上手に仕上がった作品など紹介し、安心してのびのびと制作させる。